

# 和歌山下津港港湾計画資料

— 軽易な変更 —

平成18年3月

和歌山下津港港湾管理者  
和歌山県

## 目 次

1. 変更理由	1
2. 施設計画に関する資料	2
2-1. 危険物取扱施設計画	2
3. 環境保全に関する資料	5
4. その他の資料	5
4-1. 関係機関との調整等	5
4-2. 和歌山県地方港湾審議会委員名簿	6

## 1. 変更理由

船舶の大型化に対応するため、沖山地区において、危険物取扱施設計画を変更する。

## 2. 施設計画に関する資料

### 2-1. 危険物取扱施設計画

#### (1) 危険物取扱施設計画の必要性

沖山地区における専用ドルフィンで石油類を取扱っている石油関連企業は、近年石油製品等の輸出量が増加傾向にあり、物流コスト低減のため5,000D/W級船舶へ大型化している。

現状において、石油製品等を輸出しているドルフィン(西第6棧橋及び東第1棧橋)は、国内への移出にも利用しており、利用頻度が高く、現状以上の利用は困難である。

このため、棧橋の利用の再編を行い、西第6棧橋及び東第1棧橋を外貨貨物船専用のドルフィンとし、西第4棧橋の東側を5,000D/W級の内貨貨物船へ対応できるように改良する計画とするものである。

#### (2) 危険物取扱施設の規模及び配置

計画変更する危険物取扱施設の規模及び配置は次のとおりである。

表2-1 計画変更する危険物取扱施設の規模

地区名	対象船舶	水深	バース数	種別	取扱品目
沖山地区	5,000 D/W	-8.3	1	既設の変更計画	石油製品 重油 等

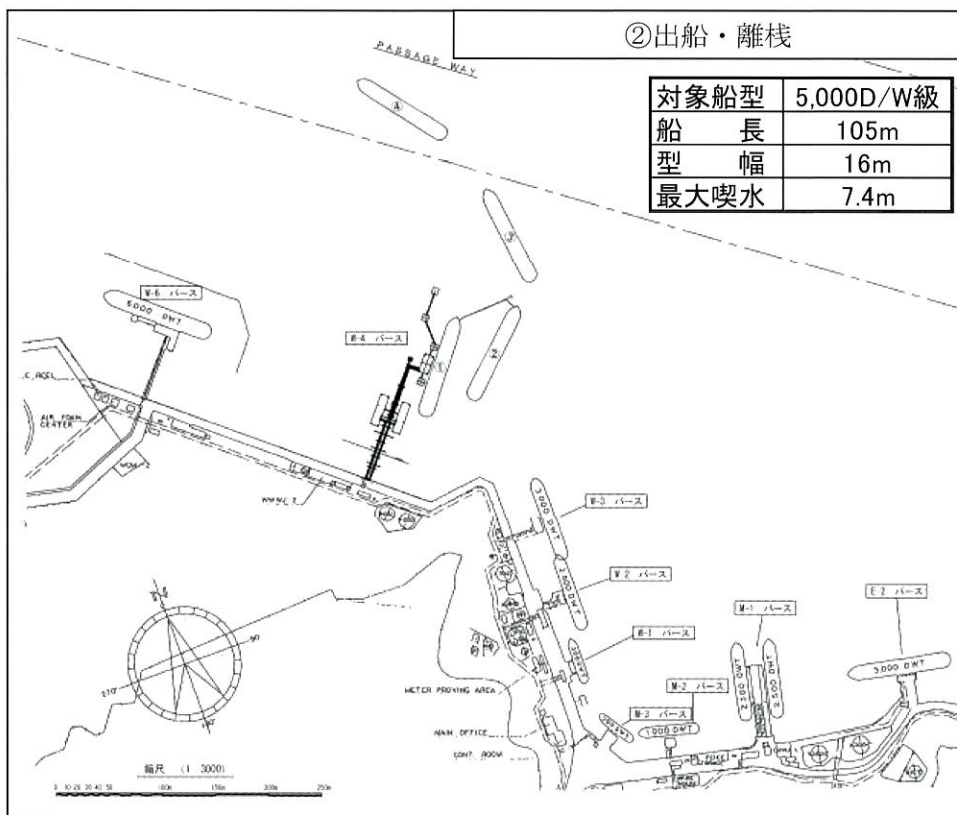
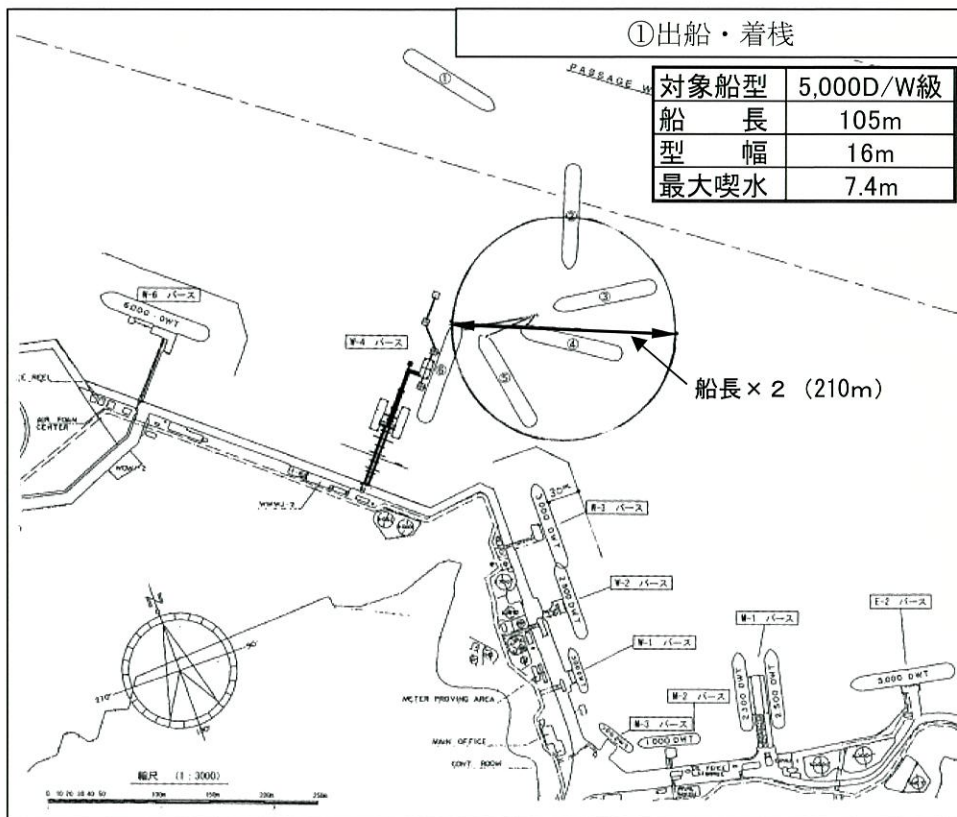


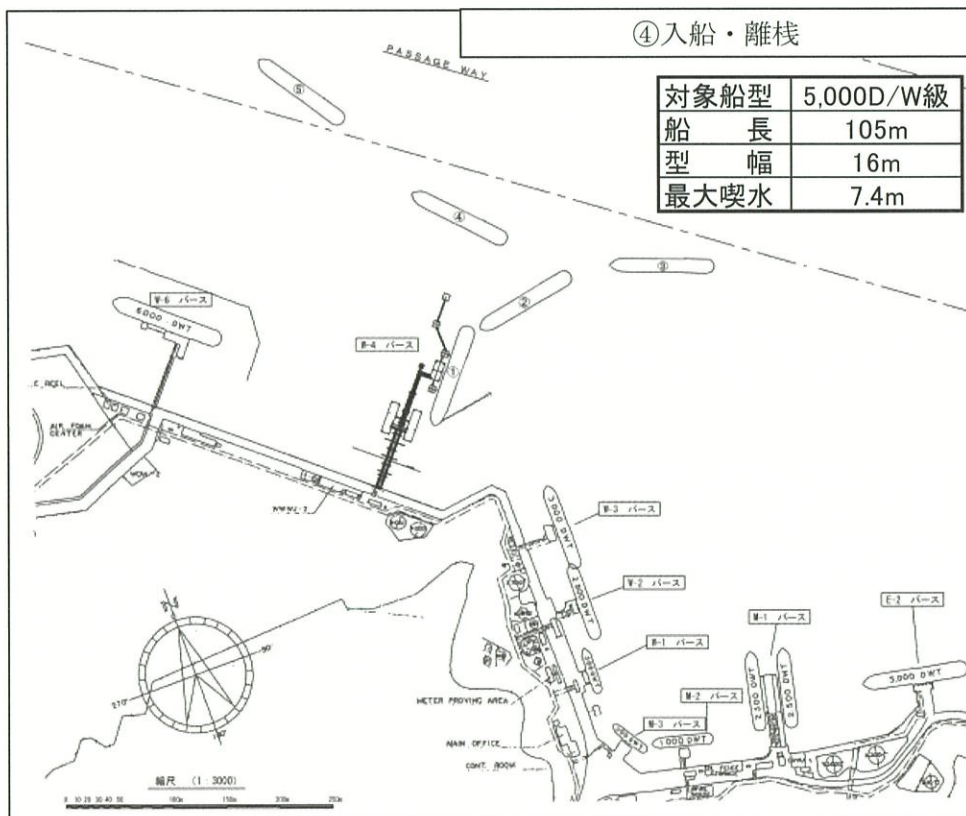
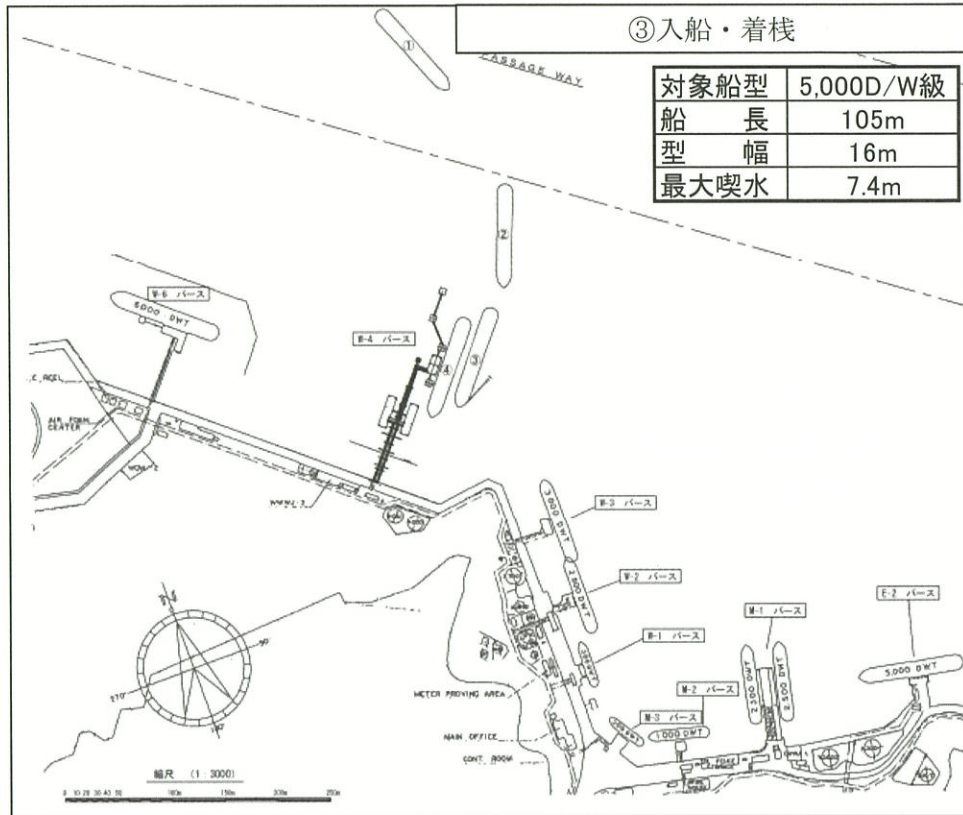
図2-1 危険物取扱施設計画位置図



(3) 操船例図

今回計画変更するドルフィンに係る操船例図は、次のとおりである。





### 3. 環境保全に関する資料

今回の計画変更に伴う負荷の増加は軽微なため、環境に及ぼす影響は軽微なものであると考えられる。

なお、今後とも環境保全について十分配慮するとともに、計画実施にあたっては、工法、工期について検討し、十分な監視体制のもとに環境に与える影響を少なくするよう慎重に行うものとする。

### 4. その他の資料

#### 4-1. 関係機関との調整等 別添資料参照

4-2. 和歌山県地方港湾審議会委員名簿

平成18年3月1日現在  
(敬称略、順不同)

委員の種類	氏名	職名	
第1号	黒田勝彦	神戸大学教授	
	濱田學昭	和歌山大学教授	
	辻本勝久	和歌山大学助教授	
	中田尚子	和歌山信愛女子短期大学教授	
	高山知司	京都大学教授	
	上村多恵子	京南倉庫(株)社長	
	谷奈々	和歌山社会経済研究所研究員	
	東恵子	東海大学短期大学部教授	
	第2号	田廣芳弘	和歌山県海運組合理事長
小野雄作		和歌山港運協会会長	
小池康雄		和歌山商工会議所副会頭	
岡本永興		全日本海員組合大阪支部長	
岩佐四郎		和歌山下津水先区水先人会会長	
吉田擴		御坊商工会議所会頭	
中川藤吉		日高木材協同組合理事長	
田中丸和男		和歌山県港湾協会副会長	
嶋洋一		和歌山県漁業協同組合連合会代表理事会長	
坂本敏夫		和歌山港湾福利厚生協会会長	
第3号		大橋建一	和歌山市長
		神出政巳	海南市長
	玉置三夫	有田市長	
	柏木征夫	御坊市長	
	入江勉	美浜町長	
第4号	宇治田栄蔵	和歌山県議会議員	
	小川武	和歌山県議会議員	
	新島雄	和歌山県議会議員	
	中村裕一	和歌山県議会議員	
	尾崎要二	和歌山県議会議員	
	富安民浩	和歌山県議会議員	
第5号	森川卓也	大阪税関長	
	谷口克己	近畿運輸局長	
	黒澤正三郎	田辺海上保安部長	
	小吹秋良	和歌山下津港長	
	藤本貴也	近畿地方整備局長	
第6号	小佐田昌計	和歌山県副知事	